

# 山 旅

会報 No.172

好山好山旅会

H 20. 6



4月の山 伊吹北尾根・横山岳(上段) 5月の山 地藏岳・谷急山(下段)

## 平成20年7月例会山行計画

第一例会	7月4日(金)～6日(日)	
東北	白神山	担当者 高柳
第二例会	7月18日(金)～20日(日)	
尾瀬	至仏山・笠ヶ岳	担当者 清水(ふ)
第三例会	7月26日(土)～27日(日)	
信州	入笠山・八島湿原	担当者 清水(裕)

## 平成20年4月の例会報告

### 《 琵琶湖周辺 伊吹北尾根・横山岳 》

参加者 清水（ふい）[L]、高橋、鈴木、豊岡、濱田

計5名

4月26日(土) 曇りのち雨 伊吹北尾根 - 清水（ふい） 記 -

東京付近は、どんよりとした曇りがちの天気だったが、新幹線に乗り込み、浜名湖近くになると晴れ間が見えてきて、これは良い兆しとっていたら、名古屋近くは雨模様。今日の天気は、どうもかなり不安定なようだ。

名古屋で、Tさん、Sさんと合流し大垣に向かい、さらに関西在住のTさんとHさんと養老鉄道の乗り換え口で、合流した。

養老鉄道の終点の揖斐駅で、予約した5人乗りのタクシーで、伊吹北尾根の出発点の国見峠に向かった。

タクシーを降りると、お天気はまずまずではあるが、いきなりの強い風に、たじろいで、国見峠の石碑を眺める余裕もなく、登山道を登り始めた。

いきなりの急登だが、だんだんと風もおさまり、余裕が出てきたころ、Sさんがお花ないねと言ったとたん、目の前にピンクの花びらを発見した。よく見ると、イワウチワの花びらだった。登山道の左側を見るとずっと奥のほうまで、イワウチワのお花畑が広がっていて、さらに登って行くとそのお花畑は、登山道の両側に広がっていて、標高800メートルから1000メートル少し上まで、かなりの長さで続いていた。さらに高度を上げて行くと、イワウチワのお花畑はカタクリの道に変わり、カタバミや、ヒトリシズカ、イワナシ、スミレなど多くの春のお花を楽しむことができた。

大禿山で、昼食を取り伊吹山に向かうが、伊吹山方面は黒っぽい雲に覆われていて、展望は全く期待できない。

石灰を多く含む滑りやすい石の道と、石のない歩きやすい道が交互に現われてくるころ、雨粒がポツリポツリと顔や手に感じるようになったので、レインウェアを身につけた。

御座峰から少し下り、少しじめじめしているようなところにザゼンソウが、顔を出していた。

静馬ヶ原という荒野のような広い所に出ると急に風が強くなり、吹きとばされそうになりながら、さざれ石公園との分岐を過ぎると程なく伊吹ドライブウェイのガードレールが見えてきて、アスファルトの道を20分程歩くと伊吹山の駐車場に着いた。

雨がだんだん強くなり、止みそうにないので、伊吹山の頂上には登らず、15時30分の関ヶ原行きのバスが来るまで休憩場で、ゆっくりすごした。

4月27日（日） 曇り時々晴れ 横山岳

- 鈴木 記 -

関西の花の名山横山岳は、私の恋焦がれていた山であった。

横山岳は琵琶湖の北部に位置する双耳峰の山で、谷コースと尾根コースがあり、今回はブナ林に行く東尾根コースをとった。宿の好意により長い林道歩きを割愛できたのは幸運であった。

登り始めより急坂が続く。イチリンソウ、スミレ、キランソウなど花いっぱい草つきの急斜面は、少し気を抜くと滑り落ちそうなほどである。尾根上に出てもまだまだ急登の連続であったが、上を見れば、タムシバ、クロモジ、ムシカリ、ミツバツツジ、足下にはシハイスミレなどの花が愛らしく咲いていて疲れを吹き飛ばしてくれた。

急斜面もそろそろ終わる頃、あたりはブナ林に変わり、イワウチワが咲きだしてきた。春のブナ林も美しかったが、そこから続くイワウチワの群落はすばらしかった。2時間ほどの登りで東峰に到着。少しかすんだ金糞岳を大きく見ることができた。

山頂付近ではイワナシの花がたくさん咲いていた。西峰（本峰）まではやせた尾根道で展望もよく、やわらかな薄緑の木々の息吹を眼下に感じながら快適に通過した。

30分程で小さな広場の横山岳本峰に到着。三高尾根コースを登ってきた男性に、花が一杯だったよと聞き心弾ませながら下山した。

下山そうそうからまた急坂が続きロープも張られていたが、道はしっかりしていて不安なく下りることができた。

下るにつれ若葉の緑が多くなりピンクの桜もやさしい色で咲いていた。道端には予告どおりイワウチワ、カタクリ、スミレ、イカリソウなどが咲きみだれ、鳥越峠が近づくあたりはヤマブキが満開であった。

鳥越からコエチ谷の下りも又急坂であったが、足元のイチリンソウと歩いてきた横山岳の峰々を眺めながら無事林道に到着した。

横山岳は春から秋までたくさんの花が咲く花の名山で、それが十分に納得できる山行であった。花の山に大感激、また、おいしい宿に感激の山旅であった。次回はぜひ、花がいちばんきれいという白谷のコースを登ってみたいと思っている。

## コースタイム

26日 伊吹北尾根

国見峠(10:15) 国見岳(11:10~11:20) 大禿山(11:55~12:15) 御座峰(12:45) 静馬ヶ原(14:15)

山頂駐車場(14:40)

27日 横山岳

東尾根コース登山口(8:20) 東峰(10:30)

横山岳(11:03~11:15)

鳥越分岐(13:05) 白谷登山口(13:30) 長治庵(14:20)

費用 電車代22560円(東京~名古屋、米原~東京の新幹線代を含む)

タクシー代2710円(一人分) バス代1200円

宿代9000円

---

## 平成20年5月の例会報告

### ( 南アルプス 地蔵岳 )

参加者 高橋[L]、高柳、土方、山田 計4名

御座石温泉~鳳凰小屋 5月3日(土)曇り

- 山田 記 -

夜来の雨が上がり、曇天ではあるが、直射日光に曝されない格好の登山日和。御座石温泉を9時54分出発。雨上がりの緑濃い山道を黙々と登る。そこかしこの山桜が美しい。このコースは歩きはじめからかなりの急登で息が切れる。全員健脚でどんどん標高を稼いでいく。西ノ平、旭岳の小ピークを乗っ越して13時20分燕頭(つばくろあたま)山2105mに到着。約3時間半で1000mの標高差を登ったことになる。ガスが出てコマツガの老木にからみつくサルオガセが神秘的だ。このあたりから雪が部分的に凍結し始めたので、アイゼンを着けて出発。ここからは多少のアップダウンはあるが緩やかな登りでそれまでよりは楽になった。ただ、急傾斜面に設けられた外傾の登山道が部分的に凍結していて神経を使った。15時30分鳳凰小屋着。鳳凰小屋は150人の収容能力とあったが、当日は30余名程度で寝床はゆったりと与えられた。年間利用者数が少ないとみえて長年設備投資を怠っており、手洗いなど快適とはいえなかった。夕食はカレーライスで山小屋としては珍しくお代わり自由であった。食後は早々に就寝。中高年の登山客が我物顔に振る舞いうるさかった。

鳳凰小屋～地蔵岳～御座石温泉 5月4日(日)快晴

- 山田 記 -

前日とは打って変わって快晴。朝日に映える地蔵岳山頂のオベリスクが美しい。5時半朝食で5時55分鳳凰小屋を出発した。樹林帯を抜け、6時50分に地蔵岳直下の賽の河原に到着した。積雪1m程度。オベリスクは岩がむき出しになっていた。オベリスク直下まで足を伸ばして、また同じルートを引き返した。下りはアイゼンを効かせてスイスイと降りて7時57分鳳凰小屋到着。アイゼンを締め直して下山開始。途中アイゼンを外して10時燕頭山到着。ここからひたすら急傾斜の登山道を下った。かなり膝が笑った。12時30分御座石温泉到着。温泉で汗を流して解散した。全員体調も良く、充実した山行であった。

#### コースタイム

5月3日 御座石温泉(9:54) 燕頭山(13:20) 鳳凰小屋(15:30)

5月4日 鳳凰小屋(5:55) 賽の河原(6:50) 地蔵岳直下(7:15) 鳳凰小屋(7:57) 燕頭山(10:00) 御座石温泉(12:30)

---

### ( 西上州 谷急山 )

平成20年5月18(日) 晴れ時々曇り

参加者 大田(L) 斉藤 中村 高橋 八木 片倉 本多(正) 清水(ふ) 宇野  
川端 土方 池田 計 12名

- 大田 記 -

信越本線の終点横川駅で高橋さんと土方さんの車がJR利用組を待ち受けてくれ、2台の車に全員が乗り込み、本日の出発点の国民宿舎裏妙義に向かった。

本日の山、谷急山はガイドブックでは6時間半程度と書かれているが、少し、長めの7時間15分で計画した。国民宿舎の駐車場で準備を整え、9時過ぎに歩き始めた。中木川沿いの林道を歩いているとじきに谷急山の入口の道標があり、川を飛び石伝いに渡渉した。

ここから三方峠までは緑の若葉の間の道を幾度となく渡渉しながら次第に高度を上げていった。時々、山ツツジやミツバツツジが咲いていたが、殆どは盛りを過ぎた頃であった。ジメジメとした木々の下を歩きながら、この辺りにはヒルがいるので注意をしないとイケないと皆で話をしながら歩いたが、私1人だけがヒルに血を吸われてしまった。

たまたま、左の手袋を見た際、血が流れていたのが手袋を外したところ指の付け根にヒルが吸いついていたので、取り除き、靴で踏んづけたらずいぶん血を吸われていた。

歩いている時に上の木から手袋に落ちてきたようだが、全然痛みがないので全く気がつかなかった。道中はあまり、きつい登りはなく、見晴らしも利かない中を歩き、11時過ぎに三方境に着いた。

三方境からはコースの周りに岩が多く、見られるようになった。だんだんと登りの傾斜がきつくなり、ところどころでは木や石を掴み這いつくばって登るようになって来た。

この辺りから、小さなピークを次々に越えて行っただが、幅50cm位のリッジを渡ったり、ロープを伝ったりしながら高度を上げて行った。3つめ目のピークを越えた頃、正面に谷急山の大きな山塊が見えてきた。ここから降りた辺りで左側を見るとものすごいクレットがあり、スリルは満点であった。ここから道は岸壁の右側を登り、どんどん急になり、木の根や岩を掴み、古いロープや、大きな鎖を使い垂直によじ登ったりしながら、次々にピークを越え、やっと頂上に辿り着くことができた。

頂上はそれほど広くなく、既に7、8人の先客が昼食をとっていた。先客と入れ替わり、我々もここで昼食タイムとした。頂上からは360度が見渡せるが、春特有の霞みのため遠景は、見えなかった。我々が下山にかかる頃、多くの登山者が登って来たので入れ替わった。旅行会社のツアーだとのことで熟達したガイドが先導していた。我々は慎重にゆっくり下山していたが、後から来たツアー客が追い付いて来たので、大きな鎖の手前のピークで先を譲り、ゆっくりと下山した。同じコースの下山であったが、ピークが多く、結構時間がかかり、三方境まで戻ってきたところで3時過ぎであった。あとは小さな沢を幾つか渡り、最後の中木沢を渡って登山口まで戻り、さらに国民宿舎まで戻って来たのは5時であった。私自身としてはヒルの被害の初体験、最後の渡渉の際、浮石で足を滑らせ、水が眼鏡にかかり、一瞬前が見えなくなって深みにはまり、ずぶ濡れも初体験したのはオマケであった。

#### コースタイム

国民宿舎(9:15) 三方境(11:05) 谷急山(13:00~25)

三方境(15:10~20) 国民宿舎(17:00)

費用 東京駅~横川駅(往復) 運賃 9,840円

< 役員会議事録 >

日 時 5月17日(金) 午前9時～午後12時迄

場 所 豊島区勤労福祉会館

出席者 高柳 小川 大田 高橋 八木 片倉 本多(正) 清水(裕) 清水(ふ) 佐々木  
計 10名

議 題

1. 平成20年度在籍会員

\* 3名が退会(矢澤、国府田、阿部)し、40名が残った。7名入会され19年度末で総勢で47名となった。昨年入会したメンバーで、まだ例会に参加されていない会員もいるので声をかけ参加を促すようにする。

1. リーダー候補

\* 来年4月から男性二名にリーダーをお願いする予定。

2. 今年度より会計監査に佐々木さんをお願いした。

3. 募集関連

\* 今のところ、女性2名、男性2名から資料請求依頼があった。うち1名は4月山行の越前岳に体験山行として参加の予定。

\* ホームページでも入会案内がダウンロードできるように準備する。(ホームページ管理者が担当)

4. 例会計画作成

\* 平成20年9月～21年3月までと、21年8月の北海道の山1件の例会計画作成した。

5. その他

\* ホームページ用パソコンを会員より1台提供を受け、リニューアルするのでデータの引越しをする。

\* 8月の新人歓迎山行を西沢渓谷に変更する。

\* 次回役員会を平成12月20日(土)午後とし、役員以外にも出席を要請し、終了後、忘年会を計画する。

以 上

お知らせ

1) 【富士山周辺の山 越前岳】は天気不良のため中止になりました。

2) 受贈会報「木鶏」2008年6月号

山旅 No.172 平成20年6月1日発行 発行者 高柳 正敏 編集者 八木元一  
発行所 埼玉県草加市瀬崎町347-20 高柳方 好山好山旅会  
WebSite <http://r-p.homeip.net/kozanko/>